

動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域

疫学・昆虫媒介感染症グループ

2023 年 9 月

イノシシの豚熱検査結果の分析概要

イノシシでの豚熱感染が確認されている 34 都府県における豚熱の感染状況と免疫獲得状況について分析した。

<東北地方>

- ・宮城県と福島県では、小規模ながら感染が確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・岩手県、秋田県、及び山形県では、感染の確認は限局的である。今後も感染の動向に注意する必要がある。

<関東・甲信越地方>

- ・茨城県と栃木県では、感染が継続して確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・群馬県、埼玉県、及び新潟県では、感染の確認は限局的である。今後も感染の動向に注意する必要がある。
- ・東京都、神奈川県、山梨県、及び長野県では、散発的な感染の確認はあるものの、数ヵ月間感染が確認されていない地域もある。一時的に感染イノシシが認められなくなった地域でも、再び感染が確認されることがあるため、今後の再発について注視する必要がある。

<北陸・中部地方>

- ・岐阜県では、2022 年 10 月以降、感染頭数と感染割合の増加が認められた。2023 年 6～8 月は感染の確認はやや落ち着き、感染割合は 2～6%で推移している。2020 年 7 月以降、免疫獲得個体よりも感受性個体の割合が高い状態となっている。2021 年 9 月以降、感受性個体の割合は約 50～85%、免疫獲得個体の割合は 10～40%で推移している。免疫獲得個体の割合が低く、感受性個体の割合が高くなっている中で、感染増加が見られることから、今後も感染の維持・拡大に注意する必要がある。
- ・愛知県では、2021 年 10 月に 1 年ぶりに感染が確認されて以降、小規模ながら感染が確認されている。岐阜県と同様、愛知県でも、2020 年夏頃から、免疫獲得個体の割合の減少と感受性個体の割合の増加が確認され、免疫獲得個体

よりも感受性個体の割合が高い状態となっている。2020 年 7 月以降、感受性個体の割合は約 45～87%、免疫獲得個体の割合は約 11～55%で推移している。愛知県でも、小規模ながら感染が確認されており、免疫獲得個体の割合の減少と感受性個体の割合の増加が確認されていることから、今後も感染の維持・拡大に注視する必要がある。

- ・静岡県では、東部を中心に小規模ながら感染が確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・富山県、石川県、及び福井県では、感染の確認は散発的である。これらの地域は、一時的に感染イノシシの確認の頻度が下がった時期があったが、今後も感染の動向に注視する必要がある。

<近畿地方>

- ・三重県、滋賀県、兵庫県、及び奈良県では、小規模ながら感染が継続的に確認されており、今後も感染が維持される可能性がある。
- ・京都府、大阪府、及び和歌山県では感染の確認は散発的であり、数ヵ月間感染が確認されていない地域もある。一時的に感染イノシシが認められなくなった地域でも、再び感染が確認されることがあるため、今後も感染の動向に注視する必要がある。

<中国・四国地方>

- ・山口県では、小規模ながら感染が継続的に確認されており、感染地域が拡大している傾向があることから、今後の感染動向に注視する必要がある。
- ・鳥取県、島根県、及び広島県では、感染の確認は限局的である。また、徳島県、香川県、及び高知県でも感染の確認は限局的である。これらの地域では感染確認からそれほど時間が経過していないことから、今後も感染が維持される可能性がある。